

新型コロナウイルスの影響で帰省を見送り、毎年出たかったお盆の法要に出られなかった人も少なくない。築地本願寺（東京・中央）ではオンライン法要など寺院のDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組んでいる。推進するのは宗務長の安永雄玄さん。元銀行員で、大学院で教職にも立つ安永さんにコロナ下の寺院のあり方などについて聞いた。

コロナと向き合う

安永 雄玄さん 築地本願寺宗務長

寺が今ある価値は 自問

不安な気持ちに寄り添う



築地本願寺が始めた「オンライン法事」。コロナ下での新たな法要のスタイルを生み出した

「昔からオンラインで法要する時代になると僕は言っていました。でも、まわりを説得しきれなかった。コロナきっかけに代替手段がないから、やるしかないという気持ちになりました。今は老人ホームや病院にいても、リアルでやっている法要にパソコンを通じて参加できます」

「「エチューブ」を通じて法話の配信も始めました」

「チャットに登録している人は800人くらい。朝の長朝勤行（じんじょうきんぎょう）お勤めのことをライブで聞いている人は毎日200人を超えます。リアルで来ている人は冬の寒いときで20、30人、暖かくなった今は40、50人です。確かに聞いていない人が半分です。あまり不自由は感じなくなりました。就業規則も変えて1時間単位の休暇を取れるようにしました」

「働き方」改革も進めているそうですね。



やすなが・ゆうげん 1954年生まれ、東京都出身。慶応義塾大学大学院博士課程修了（経営学専攻）。三和銀行（現三井住友銀行）、ラッセレレイクス・アシエンエイエなどを経て、2015年に築地本願寺の宗務長に就任。グロービス経営大学院で教授として人材マネジメント、経営現場などを担当する。

「コロナ禍が世の中に与えた影響をどう見ますか」

「中世に倣ったペストがはやってきたとき、時代がガラッと変わったはずなんです。それと同じ」

築地本願寺 浄土真宗本願寺派の寺院。1661年に浅草近くに建立。1657年の明暦の大火で焼失し、再建のために現在の場所に土地を与えられた。東京帝國大（現東大）名誉教授で建築史家の伊東忠太が設計した現在の建物は、アジアの古代仏教建築をもした外観で、本堂の口のステンドグラスなどほかの寺院には見られない特徴が多々ある。

法話を配信 法要もオンライン

「コロナ禍が世の中に与えた影響をどう見ますか」

「中世に倣ったペストがはやってきたとき、時代がガラッと変わったはずなんです。それと同じ」

築地本願寺 浄土真宗本願寺派の寺院。1661年に浅草近くに建立。1657年の明暦の大火で焼失し、再建のために現在の場所に土地を与えられた。東京帝國大（現東大）名誉教授で建築史家の伊東忠太が設計した現在の建物は、アジアの古代仏教建築をもした外観で、本堂の口のステンドグラスなどほかの寺院には見られない特徴が多々ある。

「コロナ禍が世の中に与えた影響をどう見ますか」

「中世に倣ったペストがはやってきたとき、時代がガラッと変わったはずなんです。それと同じ」

築地本願寺 浄土真宗本願寺派の寺院。1661年に浅草近くに建立。1657年の明暦の大火で焼失し、再建のために現在の場所に土地を与えられた。東京帝國大（現東大）名誉教授で建築史家の伊東忠太が設計した現在の建物は、アジアの古代仏教建築をもした外観で、本堂の口のステンドグラスなどほかの寺院には見られない特徴が多々ある。

「20代、30代の男女をひきつけるコンテンツがなかったら、いろいろと考えました。僕自身がお見合い結婚して、「お見合いおぼさん」「お見合いおぼさん」みたいな存在がなくなるなか、そういう機能が必ず必要だと思い切って始めました」

「結婚が決まった人が式を築地本願寺で開いてくれたら、ハッピーですし、子供が産まれたら初産式をここで開いてほしい。子供が10歳になったら「2歳の1成人式」、20歳になったら成人式の案内がいくように、今後は顧客情報管理（CRM）を活用していきたいと思っています」

「コロナ禍で求められる築地本願寺の価値は何でしょうか」

「一門徒さんに限らず、一般の人々の不安な気持ちに寄り添うことが大事だと思います。その姿勢を出さないといふ宗教の価値はないでしょう」

「浄土真宗が約800年続いてきたのは時代時代に合せて変革を行ってきたからです。時代に合わせた方法で布教した8代目の蓮如上人がいなければ今日のように広まっていません。明治以降も新しい時代新しいお寺を考え、椅子席で誰もが入れるお寺にしようという今の築地本願寺の本堂がでました」

「DXのDは当たり前前で、大事なのはトランスフォーメーションです。教義の中核は変わらないけど、伝え方、言葉、コミュニケーションの手段は変えていかないとけない。時代の変わり目にバトンを交わす私としては、ちゃんとサバイブ（生き残る）する地盤をつくらないといけないから責任は重大です」

（松本千恵、小林宏行）